

取組
発表

くずまき型 D M O



くずまき観光地域づくり協議会の平成30年度第2回総会であいさつする觸澤義美副町長

くずまき観光地域づくり協議会（会長、觸澤義美副町長）の本年度第2回総会は3月19日、総合センターで開催され関係者ら約30人が出席しました。今回は、同協議会の組織に所属しているスポーツ協会の名称変更による規約の一部改正のほか、検討部会ごとに平成30年度のくずまき型DMO事業の報告を行いました。觸澤副町長は「人材が生まれ育つ状況に動き始めている。さまざまな立場や業種の若者たち

が地域の課題解決に真剣に向き合い、行動する姿が見られるようになり、ネットワークが生まれたことが大きな成果と誇っています」とあいさつし、自発的な取り組みと連動しながら、今後のまちづくりへの大きな波及効果に期待を寄せていました。くずまき型DMO事業は、小さな活動の一つ一つを大切に、町に良い変化をもたらす成果を積み上げていきます。各部会の取り組みについては、次のとおりです。

くずまき観光地域づくり協議会(くずまき型DMO)

平成28年9月に発足し、3年目。観光を切り口としながら新たな経済の活性化、若者の雇用の創出を目的として6つの事業検討部会（①特産品検討部会②移住交流検討部会③観光PR検討部会④スポーツツーリズム検討部会⑤若者高校生検討部会⑥まちなか検討部会）が各部会のテーマに沿った事業を考案し取り組んでいます。

特産品検討部会 ワイン商品化に向け調整中

特産品検討部会では、新たな町の特産品作りに取り組み、商品化を目指しています。商品のパッケージや名称をブランドデザインする専門家を交えて検討を進めてきました。「くずまきワイン」と「のだ塩」を使って作るワインソルトは、商品名やパッケージなどを含めほぼ完成に近づいており、商品としての製造、販売に向けて事業者の募集を予定しています。



製造、販売に向けて調整が進められているくずまきワインとのだ塩で作られたワインソルト

移住交流検討部会 移住体験で町の魅力発信

移住交流検討部会では、移住体験ツアーを開催。より具体的に町に住むイメージを膨らませてもらえるように郷土料理作りや酪農体験、仕事の紹介などを実施しました。また、移住した人たちが少しでも早く町の暮らしに慣れ親しんでもらうために「くずまき暮らしのガイド」を作成。生活情報を掲載し、くずまき暮らしをサポートしています。



くずまき暮らし体験ツアーの民泊先でみそ作りに挑戦する参加者

観光PR検討部会 新たな観光資源で誘客

観光PR検討部会では、町がもつ資源を最大限に活用し新たな観光による誘客の促進を目指しています。くずまき型サイクルツーリズムでは、専門家の意見を参考にコースの選定のほか、マップの作成、休憩所の整備などに取り組みできました。また、星空やワインに着目したツアーを企画。若い女性を中心に「また来たい」と好評でした。



部会員らがデザインしたユニフォーム。サイクルツーリズムの普及PRのため活用されます

スポーツツーリズム検討部会 県内外でスポーツ合宿誘致

スポーツツーリズム検討部会では、東京都内で開催された合宿相談会に参加し、大学や旅行会社へのPR活動のほか、町内のスポーツ関係機関とスポーツ環境の充実などに取り組んできました。また、観光PR検討部会と進めている「くずまき型サイクルツーリズム」では、各種研修会で事例発表を行い、さまざまな面で町の魅力をPRしています。



町の補助金を活用し大会を開催した第1回なでしこカップの様子

若者・高校生検討部会 憩いの場づくりを検討

若者・高校生検討部会では、まちなかに誰もが休憩や勉強、談話ができる憩いの場づくりに取り組みました。候補地として町中心部の地区センターなどを岩手大学の学生らと調査。新町地区の町家を最終候補地としてシェアスペースの社会実験を行いました。利用者からは「このような場が必要」との意見が寄せられ、今後の活動への弾みとなりました。



町家で行われた社会実験の検討結果を報告する岩手大学の学生たち

まちなか検討部会 まちなかの魅力を引き出す

まちなか検討部会では、歩きまわりたくなるまちなかづくりを目指しています。専門家のアドバイスを参考に、町の将来像をイメージしながら「まちなかエリアビジョン」の策定に取り組みました。また、部会員らがまちづくり会社を起業（関連18頁）。町中心部の空き店舗を活用する事業展開に、今後さらなる期待が寄せられます。



「まちなかエリアビジョン」の内容について検討する部会員ら